

救い主は天から



《贈呈》

無料—非売品

救い主は天から

神のみ言葉は上から来て、義に飢え渴いている魂に非常な助けとなります。人が悔い改め、罪を捨て、そして主イエス・キリストを救主として信じた時、主はご自身をその人に顕わされ、ご自身の喜びと平安をその信じた人の心に分け与えられるのです。わたしも1937年にこの体験をいたしました。それ以来、この長い年月、一度もこの主とのすばらしい交わりを破られたことはありません。そこで、もしあなたにこの経験がないならば今ここで主にすべてを任せるようにお勧めします。

ワッツソン・グッドマン

神の愛

しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

(ローマ五・八)

さて、過越の祭りの前に、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知られたので、世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された。

(ヨハネ一三・一)

人がその友のためにはいのちを捨てるといふ、これよりも大きな愛はだれも持っていません。

(ヨハネ一五・一三)

また、忠実な証人、死者の中から最初によみがえられた方、地上の王たちの支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安が、あなたがたにあるように。イエス・キリストは私たちを愛して、その血によって私たちを罪から解放し……。

(黙示録一・五)

神は、実に、そのひとり子をお与えになつたほ

どに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。(ヨハネ三・一六)

主は遠くから、私に現われた。「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに、誠実を尽くし続けた。」(エレミヤ三一・三)

イエス・キリストの神性

確かに偉大なのはこの敬虔の奥義です。「キリストは肉において現われ、霊において義と宣言され、御使いたちに見られ、諸国民の間に宣べ伝えられ、世界中で信じられ、栄光のうちに上げられた。」(一テモテ三・一六)

初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。……ことばは人となった、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。(ヨハネ一・一、一四)

このすべての出来事は、主が預言者を通して言

われた事が成就じゆうじゆするためであった。「見よ、処女しよじよがみごもっている。そして男おとこの子を産うむ。その名はインマヌエルと呼ばれる。」(訳すと、神かみは私たちとともにおられる、という意味である。)

(マタイ一・二三二、二三三)

わたしと父ちちとは一つです。(ヨハネ一〇・三〇) イエスは彼かれに言いわれた。「ピリポ。こんなに長い間あいだあなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかつたのですか。わたしを見た者ものは、父ちちを見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父ちちを見せてください。』と言いうのですか。わたしが父ちちにおり、父ちちがわたしにおられることを、あなたは信しんじないのですか。」

(ヨハネ一四・九、一〇a)

神の御子イエス

だれでも、イエスを神かみの御子みこと告白こくはくするなら、神かみはその人ひとのうちにおられ、その人も神かみのうちにいます。

(一ヨハネ四・一五)

御使みつかいは答こたえて言いった。「聖靈せいれいがあなたの上に臨のぞみ、いと高たかき方かたの力ちからがあなたをおおいます。

それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。」
(ルカ一・三五)

ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。

(イザヤ九・六)

彼がまだ話している間に、見よ、光り輝く雲がその人々を包み、そして、雲の中から、「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを楽しむ。彼の言うことを聞きなさい。」という声がした。

(マタイ一七・五)

イエスは彼に言われた。「あなたはその方を見たのです。あなたと話しているのがそれです。」

(ヨハネ九・三七)

キリストのうちにごそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。(コロサイ二・九)

イエスが自らについて語られたこと

それでイエスは彼らに言われた。「あなたがたが来たのは下からであり、わたしが来たのは上か

らです。あなたがたはこの世の者であり、わたしはこの世の者ではありません。……イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。アブラハムが生まれる前から、わたしはいるのです。」 (ヨハネ八・二三、五八)

女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシヤの来られることを知っています。その方が来られるときには、いつさいのことを私たちに知らせてくださるでしょう。」イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」 (ヨハネ四・二五、二六)

イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことがありません。」 (ヨハネ六・三五)

わたしが世にいる間、わたしは世の光です。

(ヨハネ九・五)

そこで、イエスはまた言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしは羊の門です。」 (ヨハネ一〇・七)

イエスは言われた。「わたしは、よみがえりで

す。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」
(ヨハネ一・二五)

あなたがたはわたしを先生とも主とも呼んでいきます。あなたがたがそう言うのはよい。わたしはそのような者だからです。
(ヨハネ一三・一三)

イエスのなされた奇跡

そしてイエスは、群衆に命じて草の上になすわらせ、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて、それらを祝福し、パンを裂いてそれを弟子たちに与えられたので、弟子たちは群衆に配った。人々はみな、食べて満腹した。そして、パン切れの余りを取り集めると、十二のかごにいっぱいあった。食べた者は、女と子どもを除いて、男五千人ほどであった。

(マタイ一四・一九—二二)

するとシモンが答えて言った。「先生。私たちは、夜通し働きましたが、何一つとれませんでした。でもおことばどおり、網をおろしてみましよう。」そして、そのとおりにすると、たくさん魚がはいり、網は破れそうになった。

(ルカ五・五、六)

すると、道ばたにすわっていたふたりの盲人が、イエスが通られると聞いて、叫んで言った。「主よ。私たちをあわれんでください。ダビデの子よ。……イエスは言われた。「わたしに何をしてほしいのか。」彼らはイエスに言った。「主よ。この目をあけていただきたいのです。」イエスはかわいそうに思って、彼らの目にさわられた。すると、すぐさま彼らは見えるようになり、イエスについて行った。(マタイ二〇・三〇、三三b―三四)

創造者であり主であるイエス・キリスト

……万物を創造された神……。

(エペソ三・九a)

なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。

(コロサイ一・一六)

すべてのものは、この方によって造られた。造

られたもので、この方によらずにできたものはない。
(ヨハネ一・三)

この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。

(ヘブル一・一二)

ですから、イスラエルのすべての人々は、このことをはつきりと知らなければなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。

(使徒二・三六)

キリストは、死んだ人にとっても、生きている人にとっても、その主となるために、死んで、また生きられたのです。

(ローマ一四・九)

神は真実であり、その方のお召しによって、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられました。

(一コリント一・九)

すべての者の審判者、イエス・キリスト

それなのに、なぜ、あなたは自分の兄弟をさ

ばくのですか。また、自分の兄弟を侮るのですか。私たちはみな、神のさばきの座に立つようになるのです。

(ローマ一四・一〇)

神の御前で、また、生きている人と死んだ人とをさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現われとその御国を思つて、私はおごそかに命じます。

(Ⅱテモテ四・一)

人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴つて来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。そして、すべての国々の民が、その御前に集められます。彼は、羊飼いが羊と山羊とを分けるように、彼らをより分けま

(マタイ二五・三一、三二)

また、父はだれをもさばかず、すべてのさばきを子にゆだねられました。

(ヨハネ五・二二)

私の福音によれば、神のさばきは、神がキリスト・イエスによつて人々の隠れたことをさばかれる日に、行なわれるのです。

(ローマ二・一六)

イエスは私たちに命じて、このイエスこそ生きている者と死んだ者とのさばき主として、神によつて定められた方であることを人々に宣べ伝え、

そのあかしをするように、言われたのです。

(使徒一〇・四二)

贖いはキリストを通してのみ

わたしは門です。だれでも、わたしを通つてはいるなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つめます。

(ヨハネ一〇・九)

イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」

(ヨハネ一四・六)

それでわたしは、あなたがたが自分の罪の中で死ぬと、あなたがたに言ったのです。もしあなたがたは自分の罪の中で死ぬのです。

(ヨハネ八・二四)

完全な者とされ、彼に従うすべての人々に対して、とこしえの救いを与える者となり……。

(ヘブル五・九)

ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるので

(ローマ三・二四)

したがって、ご自分じぶんによって神かみに近ちかづく人々ひとびとを、完全かんぜんに救すくうことがおできになります。キリストはいつも生きていて、彼らかれのために、とりなしをしておられるからです。
(ヘブル七・二五)

この方かた以外いがいには、だれによっても救すくいはありません。世界中せかいじゅうでこの御名みなのほかには、私たちが救すくわれるべき名なとしては、どのような名なも、人間じんげんに与あたえられていないからです。
(使徒四・一二)

しかしあなたがたは、神かみによってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、神かみの知恵ちえとなり、また、義ぎと聖きよめと、贖あがないとになりました。
(Iコリント一・三〇)

キリストが私たちのためにご自身じしんをささげられたのは、私たちをすべての不法ふぼうから贖あがない出し、良いわざよわざに熱心ねっしんなご自分じぶんの民たみを、ご自分じぶんのためにさよめるためでした。
(テトス二・一四)

また、光ひかりの中なかにある、聖徒せいとの相續そうぞく分ぶんにあずかる資格しかくを私たちに与あたえてくださった父ちちなる神かみに、喜よろこびをもつて感謝かんしやをささげることができましますように。神かみは、私たちを暗くらやみの圧制あつせいから救すくい出だし

て、愛する御子のご支配の中に移してくだされま
した。この御子のうちにあつて、私たちは、贖
い、すなわち罪の赦しを得ています。

(コロサイ一・二二―一四)

人の子は、失われた人を捜して救うために来
たのです。

(ルカ一九・一〇)

彼らは、新しい歌を歌つて言った。「あなたは、
巻き物を受け取つて、その封印を解くのにふさわ
しい方です。あなたは、ほふられて、その血によ
り、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から、
神のために人々を贖い……。」 (黙示録五・九)

キリストの血による贖い

ですから、今すでにキリストの血によって義と
認められた私たちが、彼によって神の怒りから救
われるのは、なおさらのことです。

(ローマ五・九)

私たちは、この御子のうちにあつて、御子の血
による贖い、すなわち罪の赦しを受けているの
です。これは神の豊かな恵みによることです。

(エペソ一・七)

これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。

(マタイ二六・二八)

ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れない小羊のようなキリストの、尊い血によつたのです。

(Iペテロ一・一八、一九)

しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。

(Iヨハネ一・七)

まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におささげになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行ないから離れさせ、生ける神に仕える者とするものでしょう。

(ヘブル九・一四)

救いはキリストを信じることによる

あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことで

はなく、神からの賜物です。行ないによるものではありません。だれも誇ることにないためです。

(エペソ二・八、九)

ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。

(ローマ五・一)

キリスト・イエスにあつては、割礼を受ける受けないは大事なことではなく、愛によって働く信仰だけが大事なことです。

(ガラテヤ五・六)

……主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。

(使徒一六・三一)

なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。

(一ヨハネ五・四)

すると彼らはイエスに言った。「私たちは、神のわざを行なうために、何をすべきでしょうか。」イエスは答えて言われた。「あなたがたが、神が遣わした者を信じることに、それが神のわざです。」

(ヨハネ六・二八、二九)

しかし、これらのことが書かれたのは、イエス

が神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。

(ヨハネ二〇・三一)

神の恵み

天が地上はるかに高いように、御恵みは、主を恐れる者の上に大きい。……しかし、主の恵みは、とこしえから、とこしえまで、主を恐れる者の上にある。主の義はその子らの子に及ぶ。

(詩篇一〇三・一一、一七)

私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神がほめたたえられますように。

(Ⅱコリント一・三)

あなたのような神が、ほかにあるでしょうか。あなたは、咎を赦し、ご自分のものである残りの者のために、そむきの罪を見過ごされ、怒りをいつまでも持ち続けず、いつくしみを喜ばれるからです。

(ミカ七・一八)

あなたの恵みは大きく、天の上になで及び、あなたのまことは雲になで及ぶからです。

(詩篇一〇八・四)

私たちが滅びうせなかつたのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。それは朝ごとに新しい。「あなたの眞実は力強い。」

(哀歌三・一二二、一二三)

神は、私たちが行なつた義のわざによつてではなく、ご自分のあわれみのゆえに、聖霊による、新生と更新との洗いをもつて私たちを救つてくださいました。

(テトス三・五)

神の招き

「さあ、来たれ。論じ合おう。」と主は仰せられる。「たとい、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。たとい、紅のように赤くても、羊の毛のようになる。」

(イザヤ一・一八)

御霊も花嫁も言う。「来てください。」これを聞く者は、「来てください。」と言いなさい。渴く者は来なさい。いのちの水がほしい者は、それをただで受けなさい。

(黙示録二二・一七)

ああ。渴いている者はみな、水を求めて出て来

い。金のない者も。さあ、穀物を買って食べよ。さあ、金を払わないで、穀物を買、代価を払わないで、ぶどう酒と乳を買え。(イザヤ五五・一) さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。」

(ヨハネ七・三七)

イエスはそれをご覧になり、憤って、彼らに言われた。「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。」(マルコ一〇・一四) すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。(マタイ一一・二八)

神の子ども

そのことによつて、神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行なわない者はだれも、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。(Iヨハネ三・一〇)

神の御霊に導かれる人は、だれでも神の子ども

もです。あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によつて、「アバ、父。」と呼びます。

(ローマ八・一四、一五)

それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中にあつて傷のない神の子どもとなり……。

(ペリピ二・一五)

それゆえ、彼らの中から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。汚れたものに触れないようにせよ。そうすれば、わたしはあなたがたを受け入れ、わたしはあなたがたの父となり、あなたがたはわたしの息子、娘となる、と全能の主が言われる。

(Ⅱコリント六・一七、一八)

しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

(ヨハネ一・一二)

酒について

肉の行ないは明白であつて、次のようなもので

す。不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、酩酊、遊興、そういつた類のものです。前にもあらかじめ言つたように、私は今もあなたがたにあらかじめ言つておきます。こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。

(ガラテヤ五・一九—二二)

遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。

(ローマ一三・一三、一四)

ああ。朝早くから強い酒を追い求め、夜をふかして、ぶどう酒をあおっている者たち。

(イザヤ五・一一)

ぶどう酒が赤く、杯の中で輝き、なめらかにこぼれるとき、それを見てはならない。あとでは、これが蛇のようにかみつき、まむしのように刺す。

(箴言二三・三二、三三)

正しい道

そこで、イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』これがたいせつな第一の戒めです。」
(マタイ二二・三七、三八)

イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄って、御前にひざまずいて、尋ねた。「尊い先生。永遠のいのちを自分のものとして受けるために、私は何をしたらよいでしょうか。」イエスは彼に言われた。「なぜ、わたしを『尊い』と言うのですか。尊い方は、神おひとりのほかに、だれもありません。戒めはあなたもよく知っていますはずです。『殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証を立ててはならない。欺き取ってはならない。父と母を敬え。』すると、その人はイエスに言った。「先生。私はそのようなことをみな、小さい時から守っております。」イエスは彼を見つめ、その人をいつくしんで言われた。「あなたには、欠けたことが一つあります。帰って、あなたの持ち物

をみな売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになりま
す。そのうえで、わたしについて来なさい。」す
ると彼は、このことばに顔を曇らせ、悲しみなが
ら立ち去った。なぜなら、この人は多くの財産を
持つていたからである。

(マルコ一〇・一七—二二)

人の目にはまっすぐに見える道がある。その道
の終わりは死の道である。
(箴言一六・二五)

間違った考え方

思い違いをしてはいけません。神は侮られる
ような方ではありません。人は種を蒔けば、その
刈り取りもすることになります。

(ガラテヤ六・七)

子どもたちよ。だれにも惑わされてはいけませ
ん。義を行なう者は、キリストが正しくあられる
のと同じように正しいのです。罪のうちを歩む者
は、悪魔から出た者です。

(Iヨハネ三・七、八a)

あなたがたは、正しくない者は神の国を相続で

きないことを、知らないのですか。だまされてはいけません。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、盗む者、貪欲な者、酒に酔う者、そしる者、略奪する者はみな、神の国を相続することができません。

(一コリント六・九、一〇)

むなしいことばに、だまされてはいけません。こういう行ないのゆえに、神の怒りは不従順の子らに下るのです。

(エペソ五・六)

また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません。

(ヤコブ一・二二)

だれでも、りっぱでもない自分を何かりっぱでもあるかのように思うなら、自分を欺いているのです。

(ガラテヤ六・三)

罪は死をもたらす

そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです。

欲よくがはらむと罪つみを生うみ、罪つみが熟じゆくすると死しを生うみます。
 (ローマ五・一二)

肉にくの思おもいは死しであり、御み霊たまによる思おもいは、いのちと平安へいあんです。というのは、肉にくの思おもいは神かみに対したいて反抗はんこうするものだからです。それは神かみの律りつぽう法ほうに服く従じゆうしません。いや、服ふく従じゆうできないのです。

(ローマ八・六、七)

罪つみを犯おかした者ものは、その者ものが死しに、子こは父ちちの咎とがについて負おいめがなく、父ちちも子この咎とがについて負おいめがない。正ただしい者ものの義ぎはその者ものに帰きし、悪わる者の悪あくはその者ものに帰きする。
 (エゼキエル一八・二〇)

だがおまえの弟おとうとは、死しんでいたのが生いき返かえつて来たきのだ。いなくなっていたのが見みつかつたのだから、喜よろこぶのは当然とうぜんではないか。

(ルカ一五・三二)

このように、義ぎを追おい求もとめる者ものはいのちに至いたり、悪あくを追おい求もとめる者ものは死しに至いたる。(箴言一一・一九)

キリストは死に打ち勝たれた

聖きよい御み霊たまによれば、死し者しやの中なかからの復ふたつかつ活かつにより、

大能たいのうによって、公おおやけに神かみの御子みことして示しめされた方かた、
私わたしたちの主しゅイエス・キリストです。

(ローマー・四)

そして、イエスはそう言いわれると、大おおこえ声こゑで叫さけばれた。「ラザロよ。出でて来きなさい。」すると、死しんでいた人ひとが、手てと足あしを長ながい布ぬので巻まかれたままで出でて来きた。彼かれの顔かおは布ぬの切れで包つつまれていた。イエスは彼かれらに言いわれた。「ほどこいてやつて、帰かえらせなさい。」

(ヨハネ一・四三、四四)

そして近ちかよ寄よつて棺かんに手てをかけられると、かづいでいた人ひとたちが立たち止どまったので、「青年せいねんよ。あなたに言いう、起おきなさい。」と言いわれた。すると、その死し人にんが起おき上あがって、ものと言いひ始はじめた。

(ルカ七・一四、一五a)

わたしが自じ分ぶんのいいのちを再またび得えるために自じ分ぶんのいいのちを捨すてるからこそ、父ちちはわたしを愛あいしてくださいます。だれも、わたしからいいのちを取とつた者ものはいません。わたしが自じ分ぶんからいいのちを捨すてるのです。わたしには、それを捨すてる権けん威いがあり、それをもう一ひと度ど得える権けん威いがあります。わたしはこ

の命令をわたしの父から受けたのです。

(ヨハネ一〇・一七、一八)

(わたしは) 生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。また、死とハデスとのかぎを持っている。

(黙示録一・一八)

神の命令

あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があつてはならない。あなたは、自分のために、偶像を造つてはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造つてはならない。それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。……あなたは、あなたの神、主の御名を、みだりに唱えてはならない。主は、御名をみだりに唱える者を、罰せずにはおかない。安息日を守つて、これを聖なる日とせよ。あなたの神、主が命じられたとおりに。六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならぬ。……あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が命じられたとおりに。……殺してはならない。姦淫してはならない。

い。盗んではならない。あなたの隣人に対し、偽証してはならない。あなたの隣人の妻を欲しがってはならない。あなたの隣人の家、畑、男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない。

(申命記五・七—二二)

神から隠れることはできない

神の御目が人の道の上であり、その歩みをすべて見ているからだ。不法を行なう者どもが身を隠せるような、やみもなく、暗黒もない。

(ヨブ三四・二二、二三)

人が隠れた所に身を隠したら、わたしは彼を見つけることができぬのか。——主の御告げ。

——天にも地にも、わたしは満ちて居るではないか。——主の御告げ。——(エレミヤ二三・二四)

たとい、私が天に上つても、そこにあなたはおられ、私がおみに床を設けても、そこにあなたはおられます。……あなたにとっては、やみも暗くなく、夜は昼のように明るいです。暗やみも光も同じことです。

(詩篇三九・八、一二)

張^はつてい^る。主^{しゅ}の御目^{おんめ}はどこにでもあり、悪人^{あくにん}と善人^{ぜんにん}とを見^み張^はつてい^る。(箴言一五・三)

造^{つく}られたもので、神^{かみ}の前^{まえ}で隠^{かく}れおおせるものは何^{なに}一つなく、神^{かみ}の目^めには、すべてが裸^{はだか}であり、さらけ出^だされています。私たちはこの神^{かみ}に對^{たい}して弁明^{べんめい}をするのです。(ヘブル四・一三)

隠^{かく}れているもので、あらわにならぬものはなく、秘密^{ひみつ}にされているもので、知^しられず、また現^{あら}われないものはありません。(ルカ八・一七)

永遠の刑罰

人^{ひと}の子^こはその御使^{みつか}いたちを遣^{つか}わします。彼^{かれ}らは、つまずきを与^{あた}える者^{もの}や不法^{ふぼう}を行^{おこ}なう者^{もの}たちをみな、御国^{みくに}から取^とり集^{あつ}めて、火^ひの燃^もえる炉^ろに投^なげ込^こみます。彼^{かれ}らはそこで泣^ないて齒^はぎしりするのです。

(マタイ二三・四一、四二)

悪者^{わるもの}どもは、よみに帰^{かえ}って行^いく。神^{かみ}を忘^{わす}れたあ^{らゆる}国^{くに}々^々も。(詩篇九・一七)

しかし、今^{いま}の天^{てん}と地^ちは、同^{おな}じみことばによつて、火^ひに焼^やかれるためにとつておかれ、不敬虔^{ふけいけん}な者^{もの}ど

ものさばきと滅びとの日まで、保たれているので
す。
(Ⅱペテロ三・七)

そのような人々は、主の御顔の前とその御力の
栄光から退けられて、永遠の滅びの刑罰を受
けるのです。
(Ⅱテサロニケ一・九)

もし、あなたの手か足の一つがあなたをつまづ
かせるなら、それを切つて捨てなさい。片手片足
でのちにはいるほうが、両手両足そろつてい
て永遠の火に投げ入れられるよりは、あなたにと
つてよいことです。
(マタイ一八・八)

こうして、この人たちは永遠の刑罰にはいり、
正しい人たちは永遠のいのちにはいるのです。

(マタイ一五・四六)

死後のさばき

なぜなら、神は、お立てになったひとりの人に
より義をもつてこの世界をさばくため、日を決め
ておられるからです。そして、その方を死者の中
からよみがえらせることによって、このことの確
証をすべての人にお与えになったのです。

(使徒一七・三一)

これらのことでわかるように、主は、敬虔な者

たちを誘惑から救い出し、不義な者どもを、さばきの日まで、懲罰のもとに置くことを心得ておられるのです。

(Ⅱペテロ二・九)

このことによつて、愛が私たちにおいても完全なものとなりました。それは私たちが、さばきの日にも大胆さを持つことができるためです。なぜなら、私たちもこの世にあつてキリストと同じよきな者であるからです。

(Ⅰヨハネ四・一七)

そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている……。

(ヘブル九・二七)

死んだ人々は、これらの書物に書きしるされて、いるところに従つて、自分の行ないに応じてさばかれた。

(黙示録二〇・一二b)

なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現われて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあつてした行為に応じて報いを受けることになるからです。

(Ⅱコリント五・一〇)

こういうわけですから、私たちは、おのおの自分のことを神の御前に申し開きすることになります。

(ローマ一四・一二)

イエス・キリストの恵み

ただし、恵みには違反のばあいとは違う点があります。もしひとりの違反によって多くの人が死んだとすれば、それにもまして、神の恵みとひとりの人イエス・キリストの恵みによる賜物とは、多くの人々に満ちあふれるのです。

(ローマ五・一五)

したがって、事は人間の願いや努力によるのではなく、あわれんでくださる神によるのです。

(ローマ九・一六)

神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。

(Ⅰペテロ五・五b)

あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。

(Ⅱコリント八・九)

ことばに表わせないほどの賜物のゆえに、神に感謝します。

(Ⅱコリント九・一五)

しかし、罪の増し加わるところには、恵みも満たふれました。それは、罪が死によって支配したように、恵みが、私たちの主イエス・キリストにより、義の賜物によって支配し、永遠のいのちを得させるためなのです。

(ローマ五・二〇b、二一)

使徒たちは、主イエスの復活を非常に力強くあかしし、大きな恵みがそのすべての者の上にあつた。

(使徒四・二三)

悔い改め

神は、そのような無知の時代を見過しておられました。今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。

(使徒一七・三〇)

そうではない。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。

(ルカ一三・三)

悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。

(マタイ三・二)

そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、

イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。……そういうわけですから、あなたがたの罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。」

(使徒二・三八、三・一九)

あなたがたの犯したすべてのそむきの罪をあなたがたの中から放り出せ。

(エゼキエル一八・三一 a)

自分のそむきの罪を隠す者は成功しない。それを告白して、それを捨てる者はあわれみを受ける。

(箴言二八・一二)

神のみこころに添った悲しみは、悔いのない、救いに至る悔い改めを生じさせますが、世の悲しみは死をもたらしめます。(Ⅱコリント七・一〇)

罪の赦し

しかし、悪者でも、自分の犯したすべての罪から立ち返り、わたしのすべてのおきてを守り、公義と正義を行なうなら、彼は必ず生きて、死ぬことはない。

(エゼキエル一八・二二)

悪者はおのれの道を捨て、不法者はおのれのはかりごとを捨て去れ。主に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださいさるから。(イザヤ五五・七)

もし人の罪を赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださいます。

(マタイ六・一四)

イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、「子よ。あなたの罪は赦されました。」と言われた。

(マルコ二・五)

あなたがたに罪の赦しが宣べ伝えられているのはこの方によるということを、よく知っておいてください。……そして神は、イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えるために、このイエスを君とし、救い主として、ご自分の右に上げられました。

(使徒一三・三八b、五・三一)

見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところには行って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をします。

(黙示録三・二〇)

この世のものから離れる

というのは、すべての人を救う神の恵みが現われ、私たちに、不敬虔とこの世の欲とを捨て、この時代にあつて、慎み深く、正しく、敬虔に生活し……。

(テトス二・一一、一二)

あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。

(コロサイ三・二)

実を結ばない暗やみのわざに仲間入りしないで、むしろ、それを明るみに出しなさい。

(エペソ五・一一)

世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。

(一ヨハネ二・一五、一六)

貞操のない人たち、世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友

となりたいと思つたら、その人は自分を神の敵として
 しているのです。
 (ヤコブ四・四)

洗え。身をきよめよ。わたしの前で、あなたが
 たの悪を取り除け。悪事を働くのをやめよ。

(イザヤ一・一六)

新しく生まれる

あなたがたに新しい心を与え、あなたがたの
 うちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがた
 のからだから石の心を取り除き、あなたがたに
 肉の心を与える。
 (エゼキエル三六・二六)

もしあなたがたが、神は正しい方であると知っ
 ているなら、義を行なう者がみな神から生まれた
 こともわかるはずです。……神によつて生まれた
 者はだれも罪の中に生きないことを、私たちは知
 っています。神から生まれた方が彼を守っていて
 くださるので、悪い者は彼に触れることができな
 いのです。
 (Iヨハネ二・二九、五・一八)

だれでもキリストのうちにあるなら、その人は
 新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、
 見よ、すべてが新しくなりました。

(IIコリント五・一七)

イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」

(ヨハネ三・三)

しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。

(Iコリント六・一一b)

あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わることはない、神のことばによるのです。

(Iペテロ一・一二三)

罪に死に、キリストに生きる

あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいった者であって……(あわれみ豊かな神は)キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。

(エペソ二・一、六)

そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離

れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。

(Iペテロ二・二四)

こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。あなたがたはすでに死んでおり、あなたがたのいのちは、キリストとともに、神のうちに隠されてあるからです。

(コロサイ三・一―三)

キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、さまざまの情欲や欲望とともに、十字架につけてしまったのです。もし私たちが御霊によって生きるのなら、御霊に導かれて、進もうではありませんか。

(ガラテヤ五・二四、二五)

罪に対して死んだ私たちが、どうして、なおもその中に生きていられるでしょう。……このように、あなたがたも、自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きた者だと、思いなさい。(ローマ六・二b、一二)

永遠のいのち

自分の肉のために蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊のために蒔く者は、御霊から永遠のいのちを刈り取るのです。(ガラテヤ六・八)

モーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。それは、信じる者がみな、人の子にあつて永遠のいのちを持つためです。(ヨハネ三・一四、一五)

その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。(ヨハネ一七・三)

御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることなく、神の怒りがその上にとどまる。(ヨハネ三・三十六)

罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。(ローマ六・二三)

まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことをばを聞いて、わたしを遣わした方を

信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からのちに移っているのです。

(ヨハネ五・二四)

救いの保証

私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が、私たちの霊とともに、あかししてくださいませ。

(ローマ八・一六)

御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持つていることを、あなたがたによくわからせるためです。

(Iヨハネ五・一二、一三)

わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現わします。

(ヨハネ一四・二一)

義は平和をつくり出し、義はとこしえの平穏と信頼をもたらす。

(イザヤ三三・一七)

そして、あなたがたは子であるゆえに、神は

「アバ、父。」と呼ぶ、御子の御霊を、私たちの心に遣わしてくださいました。(ガラテヤ四・六)
神は私たちに御霊を与えてくださいました。それによって、私たちが神のうちにおり、神も私たちのうちにおられることがわかります。

(一ヨハネ四・一三)

内住のキリストが喜びを与える

わたしは今もとにまいます。わたしは彼らの中でわたしの喜びが全うされるために、世にあつてこれらのことを話しているのです。

(ヨハネ一七・一三)

わたしはもう一度あなたがたに会います。そうすれば、あなたがたの心は喜びに満たされます。そして、その喜びをあなたがたから奪い去る者はありません。

(ヨハネ一六・二三b)

なぜなら、神の国は飲み食いのことではなく、義と平和と聖霊による喜びだからです。

(ローマ一四・一七)

あなたがたは喜びながら救いの泉から水を汲む。

(イザヤ一二・三)

私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きていますのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。

(ガラテヤ二・二〇)

わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。

(ヨハネ一五・一一)

あなたは私に、いのちの道を知らせてください。あなたの御前には喜びが満ち、あなたの右には、楽しみがとこしえにあります。

(詩篇一六・一一)

主に従う

もし、あなたがたが主の御声に聞き従わず、主の命令に逆らうなら、主の手があなたがたの先祖たちに下ったように、あなたがたの上にも下る。

(Ⅰサムエル一二・一五)

あなたがたはこのことを知らないのですか。あ

なたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であつて、あるいは罪の奴隷となつて死に至り、あるいは従順の奴隷となつて義に至るのです。

(ローマ六・一六)

苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えてくださることは、神にとって正しいことなのです。そのことは、主イエスが、炎の中に、力ある御使いたちを従えて天から現われるときに起こります。そのとき主は、神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々に報復されます。そのような人々は、主の御顔の前とその御力の栄光から退けられて、永遠の滅びの刑罰を受けるのです。

(Ⅱテサロニケ一・七―九)

見よ。私は、きょう、あなたがたの前に、祝福とのろいを置く。もし、私が、きょう、あなたがたに命じる、あなたがたの神、主の命令に聞き従うなら、祝福を、もし、あなたがたの神、主の命令に聞き従わず、私が、きょう、あなたがたに命じる道から離れ、あなたがたの知らなかつ

たほかの神々に従って行くなら、のろいを与え
る。
(申命記一一・二六—二八)

キリストを告白する

すべての口が、「イエス・キリストは主である。」と告白して、父なる神がほめたたえられる
ためです。
(ピリピ二・一一)

ですから、わたしを人の前で認める者はみな、
わたしも、天におられるわたしの父の前でその人
を認めます。しかし、人の前でわたしを知らない
と云うような者なら、わたしも天におられるわた
しの父の前で、そんな者は知らないと言います。

(マタイ一〇・三三—三三)

なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白
し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよ
みがえらせてくださったと信じるなら、あなたは
救われるからです。人は心に信じて義と認めら
れ、口で告白して救われるのです。

(ローマ一〇・九、一〇)

だれでも御子を否認する者は、御父を持たず、
御子を告白する者は、御父を持っています。

(Iヨハネ二・二三)

もしだれでも、わたしとわたしのことばとを恥はじと思うなら、人の子も、自分と父と聖なる御使いとの栄光を帯びて来るときには、そのような人のことを恥はじとします。
(ルカ九・二六)

私たちの敵、サタン

身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。
(Ⅰペテロ五・八)

不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い……。
(Ⅱテサロニケ二・九)

それは彼らの目を開いて、暗やみから光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、わたしを信じ、信仰によって、彼らに罪の赦しを得させ、聖なるものとされた人々の中であって御国を受け継がせるためである。
(使徒二六・一八)

さて、イエスは、悪魔の試みを受けるため、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。……イ

エスは言われた。「引き下がれ、サタン。『あなた
の神である主を拜み、主にだけ仕えよ。』と書いてある。』すると悪魔はイエスを離れて行き、見よ、御使いたちが近づいて来て仕えた。

(マタイ四・一、一〇、一一)

終わりに言います。主にあつて、その大能の力によつて強められなさい。悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武器を身に着けなさい。(エペソ六・一〇、一一)

悪魔に対する勝利

そこで、子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によつて、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼすためでした。

(ヘブル二・一四)

罪のうちを歩む者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。神の子が現われたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです。

(Iヨハネ三・八)

私たちをキリストの愛から引き離すのはだれで

すか。患難かんなんですか、苦しみくるですか、迫害はくがいですか、
飢えうですか、裸はだかですか、危険きけんですか、剣つるぎですか。
……しかし、私たちは、私たちを愛あいしてくださつ
た方かたによって、これらすべてのことの中なかにあつて
も、圧倒あつとつてき的な勝利者しょうりしやとなるのです。

(ローマ八・三五、三七)

ですから、神かみに従したがいなさい。そして、悪魔あくまに
立ち向むかいなさい。そうすれば、悪魔あくまはあなたが
たから逃にげ去さります。神かみに近ちかづきなさい。そうす
れば、神かみはあなたがたに近ちかづいてくださいます。

(ヤコブ四・七、八a)

その時ときになると、不法ふほうの人が現あらわれますが、主しゅ
は御口みくちの息いきをもつて彼かれを殺ころし、来臨らいりんの輝かがやきをも
つて滅ほろぼしてしまわれます。不法ふほうの人の到来とうらいは、
サタンサタンの働はたらきによるのであつて、あらゆる偽いつわり
の力ちから、しるし、不思議ふしぎがそれに伴ともないます。

(Ⅱテサロニケ二・八、九)

愛、弟子のしるし

たとい、私わたしが人の異言いげんや、御使みつかいの異言いげんで話はなし
ても、愛あいがないなら、やかましいどらや、うるさ

いシンバルと同じです。(Iコリント一三・一)

しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。

(ガラテヤ五・二二、二三a)

イエスは再び彼に言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を牧しなさい。」

(ヨハネ二・一六)

もしあなたがたがわたしを愛するならば、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。

(ヨハネ一四・一五)

神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。

(Iヨハネ四・二〇)

もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。

(ヨハネ一三・三五)

私たちは、自分が死しからいのちうちに移うつったことを知しっています。それは、兄弟きょうだいを愛あいしているからです。愛あいさない者ものは、死しのうちにとどまっているのです。

(一ヨハネ三・一四)

イエス・キリストの復活

私たちは、イエスがユダヤ人じんの地ちとエルサレムエルサレムとで行おこなわれたすべてのことことの証人しやうにんです。人々ひとびとはこの方かたを木きにかけて殺ころしました。しかし、神かみはこのイエスを三日目みっかめによみがえらせ、現あらわれさせてくださいました。しかし、それはすべての人々ひとびとではなく、神かみによって前まえもって選えらばれた証人しやうにんである私たちわたしたちにです。私たちは、イエスが死者ししやの中なかからよみがえられて後のち、ごいっしょに食しょく事をじしました。

(使徒一〇・三九―四一)

さて、週しゅうの初はじめの日ひの朝あさ早くはやくによみがえったイエスは、まずマгдаラのマリヤにご自分じぶんを現あらわされた。イエスは、以前いぜんに、この女おんなから七ななつの悪あく霊れいを追おい出だされたのであった。

(マルコ一六・九)

八日よう後かのちに、弟子でしたちはまた室内しつないにおり、トマス

も彼らといっしよにいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って、「平安があなたがたにあるように。」と言われた。それからトマスに言われた。「あなたの指をここにつけて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」トマスは答えて言った。

「私の主。私の神。」（ヨハネ二〇・二六―二八）

主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。

（ローマ四・二五）

復活、私たちの栄光の望み

まことに、まことに、あなたがたに告げます。死人が神の声を聞く時が来ます。今がその時です。そして、聞く者は生きますのです。……このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者がみな、子の声を聞いて出て来る時が来ます。善を行なった者は、よみがえっていのちを受け、悪を行なった者は、よみがえってさばきを受けます。

（ヨハネ五・二五、二八、二九）

それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたのではありませんか。私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあつて新しい歩みをするためです。もし私たちが、キリストにつき合わされて、キリストの死と同じようになっていゝるならば、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。

(ローマ六・三一―三五)

もしキリストがあなたがたのうちにおられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、霊が、義のゆえに生きています。もしイエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリスト・イエスを死者の中からよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられる御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも生かしてくださるのです。

(ローマ八・一〇、一一)

神のきよめ

われらを敵の手から救い出し、われらの生涯のすべての日に、きよく、正しく、恐れなく、主の御前に仕えることを許される。

(ルカー・七四、七五)

愛する者たち。私たちはこのような約束を与えられて、自分自身をきよめ、神を恐れかしこんで聖きを全うしようではありませんか。(Ⅱコリント七・一)

私は、あなたがたが悔い改めるために、水のバプテスマを授けていますが、私のあとから来られる方は、私よりもさらに力のある方です。私はその方のはきものを脱がせてあげる値うちもありません。その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。

(マタイ三・一一)

父なる神の予知に従い、御霊の聖めによって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人々へ。

(Ⅰペテロ一・二a)

ですから、だれでも自分自身をきよめて、これらのことを離れるなら、その人は尊いことに使われる器となります。すなわち、聖められたもの、主人にとって有益なもの、あらゆる良いわざに間に合うものとなるのです。

(Ⅱテモテ二・二二)

あなたがたを召してください。さつた聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行ないにおいて聖なるものとされなさい。(Ⅰペテロー・一五) ですから、イエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。

(ヘブル一三・一二)

すなわち、神は私たちを世界の基の置かれる前からキリストのうちに選び、御前で聖く、傷のない者にしようと言われました。……真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした。

(エペソー・四・二四)

そこに大路があり、その道は聖なる道と呼ばれる。汚れた者はそこを通れない。これは、贖われた者たちのもの。旅人も愚か者も、これに迷い

込むことはない。

(イザヤ三五・八)

もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方です。その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてください。

(Iヨハネ一・九)

このように、これらのものはみな、くずれ落ちるものだとすれば、あなたがたは、どれほど聖い生き方をする敬虔な人でなければならぬことでしょうか。

(IIペテロ三・一一)

すべての人の平和を追い求め、また、聖められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることはできません。

(ヘブル一一・一四)

聖霊に満たされる

してみると、あなたがたも、悪い者ではあつても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さらないことがあるでしょう。

(ルカ一一・一三)

彼らがこう祈ると、その集まっていた場所が震

い動き、一同は聖霊に満たされ、神のことは大
胆に語りだした。
(使徒四・三二)

わたしの霊をあなたがたのうちに授け、わたし
のおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り
行なわせる。
(エゼキエル三六・二七)

けれども、もし神の御霊があなたがたのうちに
住んでおられるなら、あなたがたは肉の中には
なく、御霊の中にいるのです。キリストの御霊を
持たない人は、キリストのものではありません。

(ローマ八・九)

しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、
あなたがたは力を受けます。そして、……わた
しの証人となります。
(使徒一・八)

彼はりっぱな人物で、聖霊と信仰に満ちている
人であった。
(使徒一一・二四 a)

弟子たちは喜びと聖霊に満たされていた。

(使徒一三・五二)

クリスチャンへのすばらしい約束

主は心の打ち砕かれた者の近くにおられ、た
ましいの砕かれた者を救われる。
(詩篇三四・一八)

これらすべては、わたしの手が造つたもの、これらすべてはわたしのものだ。——主の御告げ。——わたしが目を留める者は、へりくだって心碎かれ、わたしのことばにおののく者だ。

(イザヤ六六・一二)

するとイエスは言われた。「できるものなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」

(マルコ九・二三)

愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間に燃えさかる火の試練を、何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく、むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現われるときにも、喜びおどる者となるためです。

(Iペテロ四・一二、一三)

彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってください。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。

(黙示録二一・四)

主に信頼して善を行なえ。地に住み、誠実を養え。

(詩篇三七・三)

試みのときの約束

主は、ご自身が試みを受けて苦しまれたので、
試みられている者たちを助けることがおできに
なるのです。
(ヘブル二・一八)

平和の神は、すみやかに、あなたがたの足でサ
タンを踏み砕いてくださいます。

(ローマ一六・二〇a)
正しい者の悩みは多い。しかし、主はそのすべ
てから彼を救い出される。
(詩篇三四・一九)

あなたが水の中を過ぎるときも、わたしはあな
たとともにおり、川を渡るときも、あなたは押し
流されない。火の中を歩いて、あなたは焼かれ
ず、炎はあなたに燃えつかない。

(イザヤ四三・一二)
神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従
って召された人々のためには、神がすべてのこと
を働かせて益としてくださることを、私たちは
知っています。
(ローマ八・二八)

あなたがたの会った試練はみな人の知らないよ

うなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に会わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。

(Iコリント一〇・一三)

勝利の約束

勝利を得る者を、わたしの神の聖所の柱としよう。彼はもはや決して外に出て行くことはない。わたしは彼の上にわたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下って来る新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを書きしるす。(黙示録三・一二)

勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。そして、わたしは、彼の名をいのちの書から消すようなことは決してしない。わたしは彼の名をわたしの父の御前と御使いたちの前で言い表わす。

(黙示録三・五)

勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせよう。それは、わたしが勝利を得て、

わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである。
(黙示録三・二二)

勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。

(黙示録二二・七)

耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べさせよう。

(黙示録二・七)

離婚について

次に、すでに結婚した人々に命じます。命じるのは、私ではなく主です。妻は夫と別れてはいけません。——もし別れたのだったら、結婚せずにいるか、それとも夫と和解するか、どちらかにしなさい。——また夫は妻を離別してはいけません。
(Iコリント七・一〇、一一)

夫のある女は、夫が生きている間は、律法によって夫に結ばれています。しかし、夫が死ねば、夫に関する律法から解放されます。ですから、夫が生きている間に他の男に行けば、

姦淫かんいんの女おんなと呼ばれるのですが、夫おつとが死ねば、律りつ法ぽうから解放かいほうされており、たとい他の男おとこに行いつても、姦淫かんいんの女おんなではありません。

(ローマ七・二、三)

だれでも妻つまを離別りべつしてほかの女おんなと結婚けつこんする者は、姦淫かんいんを犯おかす者ものであり、また、夫おつとから離別りべつされた女おんなと結婚けつこんする者ものも、姦淫かんいんを犯おかす者ものです。

(ルカ一六・一八)

しかし、わたしはあなたがたに言いいます。だれであつても、不貞ふてい以外の理由りゆうで妻つまを離別りべつする者ものは、妻つまに姦淫かんいんを犯おかさせるのです。また、だれでも、離別りべつされた女おんなと結婚けつこんすれば、姦淫かんいんを犯おかすのです。

(マタイ五・三二)

キリストの再臨

わたしが行いつて、あなたがたに場所ばしょを備そなえたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎むかえます。わたしのいる所ところに、あなたがたをもおらせるためです。

(ヨハネ一四・三)

わたしは、すぐに来くる。あなたの冠かんむりをだれにも奪うばわれないように、あなたの持もっているものを

しつかりと持つていなさい。(黙示録三・一一)

このような姦淫と罪の時代にあつて、わたしとわたしのことばを恥じるような者なら、人の子も、父の栄光を帯びて聖なる御使いたちとともに来るときには、そのような人のことを恥じます。

(マルコ八・三八)

そのとき、人の子のしるしが天に現われます。

すると、地上のあらゆる種族は、悲しみながら、人の子が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗つて来るのを見ます。(マタイ二四・三〇) あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主の来られるのが近いからです。

(ヤコブ五・八)

人の子の来るのは、いなずまが東から出て、西にひらめくように、ちようどそのように来るのです。(マタイ二四・二七)

そして、こう言った。「ガリラヤの人たち。なぜ天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上つて行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。」(使徒一・一一)

そのとき、人々は、人の子が力と輝かしい栄光を帯びて雲に乗って来るのを見るのです。

(ルカ二一・二七)

愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現われたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。キリストに対するこの望みをいだく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。(Iヨハネ三・二、三)

見よ。わたしは盗人のように来る。目をさまして、身に着物を着け、裸で歩く恥を人に見られないようにする者は幸いである。

(黙示録一六・一五)

あなたがたも用心していなさい。人の子は、思いがけない時に来るのですから。

(ルカ二一・四〇)

人の子は父の栄光を帯びて、御使いたちとともに、やがて来ようとしているのです。その時には、

おのおのその行ないに應じて報いをします。

(マタイ一六・二七)

神のいとは

この天地は滅びます。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。

(ルカ二一・三三)

なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。

(Ⅱペテロ一・二二)

聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。

(Ⅱテモテ三・一六)

あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。

(詩篇一一九・一〇五)

祈りと赦し

だから、こう祈りなさい。「天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。私たちの日ごとの糧を

きょうもお与えください。私たちの負いめをお赦しください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました。私たちを試みに会わせないで、悪からお救いください。〔国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。アーメン。〕

もし人の罪を赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してください。しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪をお赦しになりません。

(マタイ六・九―一五)

Published in numerous languages by World Missionary Press, Inc., as God supplies funds in answer to prayer. **For questions or more information by country, visit: www.wmp-contacts.org**



Read booklets online or by App
www.wmp-readonline.org
36/2 Japanese HFA

World Missionary Press
PO Box 120
New Paris, IN 46553-0120 USA
www.wmpress.org